

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2568 号

Association between Dietary Habits and Type 2 Diabetes Mellitus in Yangon, Myanmar:
A Case-control Study

ミャンマー国ヤンゴンにおける食習慣と 2 型糖尿病との関連：症例対照研究

上野 里美 (うへの さとみ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、ミャンマー都市部における地域住民の食習慣の危険因子と 2 型糖尿病の関連を初めて明らかにしたものである。近年、ミャンマーでは、2 型糖尿病患者の有病率が増加しているが、その原因については十分解明されていない。そこで、本研究は、ミャンマー国ヤンゴン地域在住の 25~74 歳の 300 人を対象に、糖尿病クリニックで糖尿病と診断された新規患者 150 人と、地域から選出された非糖尿病の住民 150 人について症例対照研究を実施した。その結果、症例群は対照群と比較すると、麺、魚、豆、発酵食品と漬物、乾燥食品、調味料(主食や副菜に加える)、非乳製品の摂取頻度が有意に高く、野菜および果物はいずれも摂取量が有意に少なかった。食行動に関しては、家族と食事をする、朝食を抜く、外食する頻度が対照群に比べ有意に高かった。交絡要因を考慮した最終モデルでは、調味料(調整オッズ比 (aOR) 11.23、95%信頼区間 (CI) 3.08-40.90)、3 サービング/日以上野菜摂取 (aOR 0.18、95%CI 0.05-0.67)、および家族と食事をする (aOR 2.23、95% CI 1.05-4.71) が 2 型糖尿病と関連していた。糖尿病患者群と非糖尿病患者群における性別、年齢等の違いを配慮する必要があるが、ミャンマーの特徴的な食文化である塩分を含む調味料を食事に加える、家族で複数の料理を囲み一緒に食するという習慣が、2 型糖尿病に関連する危険因子である可能性が示された。本研究の結果は、ミャンマー都市部における 2 型糖尿病の一次予防に資することが期待される。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。